
前世は姫巫女！？

貧乏狸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

前世は姫巫女！？

【Nコード】

N5136BA

【作者名】

貧乏狸

【あらすじ】

平安の世に一人の巫女がいた。
いいとこ育ちのお姫様。
ちよつと粘着質な付き人に、幼馴染の美男子の王子。
そんな姫様に悲劇が起こり、帰らぬ人となってしまいが・・・

世は平安。

まだ日本の地に神や妖かしといった存在が跋扈していた時代。

人々は普段は姿を見せないが、確かにそこに息づく存在たちを時は敬い、時には恐れた。
人と自然、そして存在が少しあやふやな者達が調和をなして生きていたそんな時代。

とある国の国司の娘に晴香と呼ばれる大層美しい姫がいた。

この姫の本来の父親は東翔山住まう神の一柱、栄峰乃守という者で、国司の妹に当たる人物と情を交わし晴香が誕生した。

国司である昌則は巫女である妹の懐妊に驚きつつも、相手が家内に幸福を運ぶ神とされる栄峰乃守と知り、喜んで姪に当たる晴香を養子に迎え入れた。

幼子の頃からどこか超然としていた晴香であつたが成長するにつれ、優秀であつた母の巫女としての力を受け継いだのか、はたまた父の神聖を受け継いだからなのか。

12の歳になる頃には、母や父すらをも越える力を小さなその体に宿しており、母の後を継ぎ巫女となり、人に仇名す物の怪などをその力を振るい次々と滅ぼしていった。

普通の貴族の女子ならば、妙齡の年頃ともなれば御簾の向こう側に

引き籠もり、男性に直接顔を見せることも無く、歌などを詠みながら婚姻のお相手を探すところであるが・・・。

彼女、晴香はそれとは大きくかけ離れた生活を送っていた。

都から少し離れた場所に居を構え、女伊達らに陰陽師の中に混じって妖かしを相手取り、乳兄弟の明平を護衛として連れ回し、市を練り歩いたりと遣りたい放題である。

そんな彼女だが、何故か男性には貴賤問わずに受けは良かった。

確かに容姿は神の血を受け継いでいることもあってか、人ならざる者といえる美貌ではあったが、彼女が異性を異様に惹きつけたのはそればかりではなかった。

当時、彼女と同年代の葵の君という姫が居たのだが、その姫も晴香に負けず劣らぬ美しさだった。

しかし、晴香と比べると宮中で上がる話題の数は天と地ほどの差があり、それと同じくらい求婚した男性の数にも差があった。

また帝からの覚えも良いときている。

葵の君の父は左大臣、一方晴香の父昌則はただの一国司である。

これを考えるに葵の君の方が多くの恋文をもらってもおかしくないはずなのだが、現実是非常であった。

女の嫉妬は恐ろしいものである。

後に葵の君が陰で暗躍し、晴香の命を奪わんとするのだが・・・

-

ともかく晴香は貴賤問わず人々から『姫巫女』と呼ばれ親しまれていた。

そんな彼女も14歳。

恋に恋するような年齢になり、彼女自身も少しは恥じらいというものを覚えて、今までのような振る舞いを控え始めたのである。

今まででさえ貴族からの求婚が後を絶たない状態だったのだ。以前から彼女を妻にしようとしていた者たちは躍起になり、また彼女の美しさの噂を聞き駄目元で求婚を申し込む者も出始める始末。しかし、彼らの望みはついぞ叶う事はなかった。

彼女に幼い頃から恋心を抱く乳兄弟の明平によって、全てはあっさり切り捨てられていたのだ。

恋文が着たならば彼は彼女の書体を真似て返事を出し、また夜這いなどを駆けようとする不埒者は『文字通り』あっさり切り捨てたのである。

当時、夜這いは文化として受け入れられていた事ではあるが、それを夜這いに来た貴族を問答無用で切り捨てたとあつては大問題になりかねなかったが、晴香を慕う他の大勢の貴族によって黙認されていた。

このまま彼女は誰のものにもならないのではないか……世間の彼女に対する認識はその方向で纏まりかけていたのだが、事態は急展開を迎えることとなる。

なんと彼女の父昌則が彼女の縁談を取りまとめてしまったのである。お相手は隣の国の国司の長男で名を金盛という。

金盛は晴香より3歳ほど年上であるが、幼少の頃から晴香と付き合いがあり、幼馴染と呼べる間柄であった。

また、彼自身も女性から人気があり、一本筋の通った伊達男で中々の美男子である。

そんな金盛が婚儀の日取りが決まるまでの間、晴香の住む屋敷で一緒に暮らし始めることが決まった。

金盛のお付の者たちがせつせと屋敷に家財を運んでいる時分に、金盛と晴香は昔『三人』で一緒に遊んだ庭の石でできた腰掛に腰を下

ろし、昔の事を語りながら談笑していた。

その様子を少し離れた場所で見守る男、明平は顔には出さしていないが、内心では怒りと嫉妬で狂いそうになっていた。

自分の、自分の大切な姫がこの男に取られてしまうと。

自然と腰に掛けている刀に幾度となく手を伸ばしては引っ込めを繰り返す。

時代が時代である。

彼は国司に仕える一家人。

そんな彼が主君の娘である姫に恋心を抱くこと事態、恐れ多い事であるのにましてや恋心を打ち明け求婚などと。

身分違いの恋、それも彼女から己に向けられる感情は弟に対する様なもの。

現代に生まれていれば彼はこのようなストーカー気質のヤンデレ男にはなっていないかったかもしれない。

。 - - - - 元々そうだった素質を持っていたのかもしれないが・・・

そうして時は過ぎ、皆をヤキモキさせている二人の婚儀がついに二週間後に迫ったある日の事。

夕餉を食べようとすると晴香の下に、全身を自身の血で濡らした家人から驚愕の報せを聞くこととなる。

「八又の大蛇が姫様を狙ってこの国に攻め入りました」

八又の大蛇とは唐から渡ってきた龍と人との間に生まれた人妖で、妖かしの中でも1、2を争う力を持った大妖である。

この人妖は途方も無い女好きで知られており、美しく自分の気に入った者であれば力づくで奪い去り、妻としてきた。

有名なのがここ100年ほど前の話で、8つの国の姫たちに「我が妻となれ、断ればそなたの国を攻め滅ぼしに参る」と文を送り、当然の如く拒絶されたのだが……。

八又の大蛇は己の体を8体に分けて、それぞれの国に攻め入り、国を滅ぼしてから姫たちを己の妻にしてしまったのだ。

この事から女性関係においての又と、大蛇の8つに分かれた体をさしてできた二つ名が『八又の大蛇』である。
そんな大妖に狙われた晴香の取った行動とは……。

八又の大蛇は倒された。

姫巫女である晴香姫の命と引き換えに。

派遣された搜索隊の兵が見たものは、戦いによってできたと思わしき破戒されつくした大地の上に、人の形をした大蛇と姫の遺体が重なりあつて倒れ付していたという。

現地で一体何が起こったのか？

それを知る者たちは既にこの世にはいない。

持ち帰られた姫の遺体は懇ろに弔われ、彼女の小さな身体には不釣り合いなほど大きい立派なお墓に入れられた。

彼女を慕っていた者たちは列を作り、墓参りに惜しげもなく足を運んだ。

飾らない彼女の冥福をただただ祈って。

月日が流れ、何時の頃から建てられたのかは分からないが、彼女の墓を囲むように寺院が建ち並び、そこで祭られているのは神ではなく勇氣ある一人の女の子。

彼女の墓の横には、喪が明けてすぐに殉死した彼女の付き人、明平の墓が彼女の墓を守るようにひっそりと佇んでいる。

時は平成。

数多くいた妖かし共は鳴りを潜め、神の存在や大自然の脅威は稀薄になり、人が科学の力によって空を飛ぶ時代。

そんな時代に生れ落ちた一風変わった学生がいる。

「春臣、明ちゃんが今日も迎えに来てくれたわよ！さっさと起きなさい！！！」

「うーん、後5年寝たら起きる・・・」

不思議な力を行使でき、人には見えざる『モノ』が見える。

そんな彼とヤンデレな幼馴染、クールな許婚に素直ヒートな蛇っぽい女と真の黒幕。

彼、彼女らの織り成すドタバタラブコメディー、所によりシリアス。これはそんな物語。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5136ba/>

前世は姫巫女！？

2012年1月14日05時48分発行